

# 小樽商科大学 年間イベントスケジュール

商大の1年間の中には、とてもたくさんの行事が詰まっています。特に、『緑丘祭』は誰もが知っている一大行事ですが、商大には『緑丘祭』以外にも注目すべきイベントが数多くあります。今回は、商大生に知っておいてほしいイベントを1年間の流れでまとめてみました！小樽市のイベントも併せて紹介しているので、学内外問わず、たくさんのイベントに足を運んでみてくださいね！



## 商大

4月  
入学式  
新入生歓迎イベント

5月  
学生大会・学生総会

6月  
対北大総合定期戦  
緑丘祭・緑宵祭

7月  
前期期末試験

8月~9月  
夏休み

10月  
国際交流週間

11月  
定期演奏会

12月  
インナーゼミナル大会  
冬休み

1月  
学科選択

2月  
後期期末試験

3月  
学位記授与式

## 小樽市

4月  
おたる春祭り

5月  
おたる祝津にしん群来祭り  
おたる運河ロードレース

6月  
おたる祝津にしん群来祭り  
おたる運河ロードレース

7月  
おたる潮祭り

8月  
堺町中かた風鈴まつり  
小樽天狗山まつり

9月  
おたる祝津花火大会

10月  
小樽硝子アート展

11月  
小樽産しゃご祭り

12月・1月  
小樽雪あかりの路

2月  
おたる雛めぐり

3月  
おたる雛めぐり

**Pick Up!**  
商大と北大の各体育系サークルが一戦を交える伝統的なイベントで、『北の早慶戦』とも呼ばれています。応援団の対面式も有名！

**Pick Up!**  
音楽系の各サークルが演奏会を開催する時期です。11月と言えば、芸術の秋。皆さんも素晴らしい演奏に耳を傾けてみては？

**Pick Up!**  
各ゼミナルが自分たちの研究成果を発表し合い、討論を行います。他の授業ではなかなか味わえない、より実践的な学問の場です。ゼミに所属していない学年でも、発表を聞くことができます。

**Pick Up!**  
距離の異なる4コースで競われるロードレースです。毎年多くの商大生が参加していますが、和田学長も走者として毎年参加しています！

**Pick Up!**  
海への感謝と小樽の発展を祈念する祭り。6,000人が市内を踊り歩く「潮ねりこみ」や潮太鼓、みこしパレード、花火大会などが楽しめます。

**Pick Up!**  
運河の水面で瞬く浮き玉キャンドル、手宮線会場のスノートンネルなど、キャンドルの温かな灯がもてなしてくれます。毎年、国内外から多くの観光客が訪れています！

## 編集後記

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！年2回発行している学園だよりでは、今年も学生の活躍や大学の取り組みなど、さまざまな情報を発信していきたいと思っています。学園だよりは大会館等に置いてあるので、皆さんぜひ手にとって読んでみてください！  
(学生支援課)

小樽商大の新鮮な情報を毎日発信！

## ブログ「商大くんがいく！」

商大若手職員と学生がタッグを組んで作っている「商大くんがいく」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内のさまざまな旬のトピックスがご覧になれます。  
<http://www.otaru-uc.ac.jp/shoudai-kun/>

P6「小樽商科大学新しい学び」及びP7「年間イベントスケジュール」は記事作成にあたり、学園だより編集委員 藤本拓也さんにご協力いただきました。

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE



# 学園だより

小樽商科大学広報誌  
vol.179  
2016 SPRING



## CONTENTS

学長挨拶.....	1	必ず守ろう！飲酒のルール.....	5
緑丘会理事長挨拶.....	2	小樽商科大学 新しい「学び」.....	6
学生の学びのための新たな空間.....	3	小樽商科大学 年間イベントスケジュール.....	7
留学体験記.....	4	編集後記・商大くんブログ.....	7

■表紙について  
茶道部の学生と留学生が、茶道を通して交流を深めている様子です。本学には、大会館の1階に和室があり、主に茶道部が活動の場として利用しています。毎年、留学生とのお茶会も催されており、文化体験を通じて国際交流が活発に行われている様子がうかがえます。  
(撮影協力：写真部 葛西愛香・両瀬逸美 題字は和田健夫 学長)

学園だより vol.179 (平成28年春号) 平成28年4月4日発行 ■〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号 国立大学法人小樽商科大学 学生支援課学生支援係 TEL: 0134-27-5245 E-mail: g-shien@office.otaru-uc.ac.jp

## 新たな可能性が みなさんを待っています

新入生諸君、ご入学おめでとうございます。教職員一同心よりお祝い申し上げます。

われわれが住んでいる社会は、格差が拡大し、憎しみや対立が生まれ、寛容さを失いつつあるように見えます。さらに、すべてのできごとが国境を越えて繋がるグローバリズムが支配する時代です。多様な価値観と異文化のなかで生きていくためには、自分自身の拠りどころを持つことが必要です。簡単なことではありませんが、大学の自由な雰囲気のおかげで、新しい知識や思想を学び、多くの人と出会うことは、そのための糸口を与えてくれるはずです。

わが国は、新しい時代の創造にあたらなければなりません。大学はそれを支える人材を育成しなければなりません。小樽商科大学は、百年を越える歴史のおかげで、他の大学にはないユニークな教育を行ってきました。すなわち、専門知識と幅広い教養・外国語能力の双方を兼ね備えた人材の育成です。その際、実践を重んじ実践から学ぶ態度を身につける実学教育にも力を入れてきました。

グローバル社会は否応なしに進展していきます。小樽商科大学は、今年度から、グローバルな視野のもとで、ローカル＝地域の視点から行動できる人材（「グローバル人材」）の育成という目標を掲げ、再スタートを切ることになりました。海外留学を一層促進するために、本学OBからの寄付金により基金を設立し、返還の義務がない給付型の奨学金制度を設立しました。多くみなさんに利用してもらいたいと思います。

小樽商科大学は、みなさんが拠りどころを見つけるための手助けをできると確信しています。みなさんが成長するために必要な最大限の支援をします。学生生活を有意義に過ごしてください。

平成28年4月4日  
小樽商科大学長  
和田 健夫

和田 健夫

## 小樽商科大学新入生に 対するメッセージ

新入生の皆さん、小樽商科大学への入学おめでとうございます。同窓生を代表して心よりお祝い申し上げます。私も半世紀前に、皆さんと同じように希望に胸を膨らませて入学式に臨んだことを昨日のように思い出されます。

私の学生生活を振り返りますと、学生寮生活、応援団、バスケットボール部、ゼミ活動などを通して多くの事を学び、現在も続く生涯の友を得ることができました。小樽商科大学は、小樽の街と一体化した国立大学では唯一の社会科学系単科大学で、これは昔も今も変わりません。小規模ではありますが、創立以来100余年にわたりグローバルな人材を北海道はもとより全国に送り出してきました。国際的な場で活躍しているOB・OGも少なくありません。

大学で何を学び、何を得て巣立っていくのか、皆さんはどのようなプランを持っていますか？

実社会の経験をした先輩からの助言です。

第一に、学問を修めることはもちろんのこととして、皆さんには国際的視点を持ち、日本国内はもとより国際的な動向にも強い関心を持って欲しいということです。最近では道内での就職を希望する方が増えているようですが、北海道の産業や経済の進展には、今まで以上に国際的な繋がりが重要です。道内で職を求めるときであってもグローバルな視点を欠くことはできません。

第二は、緑丘での4年間に、勉学に加えて、これはという経験を積んで欲しい。スポーツでも文化的なことでも良いのです。夢中になって打ち込んだ経験が社会に出てから大きな自信になるはずです。

小樽商科大学には他の大学にない良さが数多くあります。一つだけ挙げるなら、小規模な単科大学が育む「学生、教職員、卒業生の強い一体感」です。この緑丘で培われた強い絆が社会に出た後も続き、財産となるはずです。

皆さんは今、真っ白なキャンパスの前に立っています。有意義な4年間を過ごし、自分自身の絵を思いっきり描いてください。



サンシャイン60ビル

### 小樽商科大学同窓会 緑丘会について

小樽商科大学の同窓会である「公益社団法人緑丘会」は、1939年（昭和14年）に法人化され、本部を東京・池袋サンシャイン60ビル・57階に置き、全国に24の支部（海外を含む）、会員6,000名余を擁しています。公益財団法人小樽商科大学後援会ともども母校の基盤向上のために、他国立大学に例を見ない年間約2千万円の規模で助成事業を行っております。

主な助成事業は次の通りです。

- ①学生の社会人基礎力養成、就業力育成に関する普及、啓発を目的とした「キャリア形成支援企業セミナー」の主催、②正課教育である「エバーグリーン講座」の運営支援、③国際的な視野に立つ人材育成を目的とした奨学金給付及びTOEICの受験費用補助、④就職活動資金の貸与等。



公益社団法人 緑丘会  
理事長 島崎 憲明

改修により  
平成28年3月に完成した、  
学生の学びのための新たな空間を  
紹介します。



### 3号館2F グローバルラウンジ I

外国人留学生と日本人学生が交流することを目的としたラウンジです。飲食可能なスペースで、誰でも自由に利用できます。国際交流や留学に関するパンフレットも置いてありますので、国際交流に興味のある学生はぜひ活用してください。



### 3号館2F グローバルラウンジ II

多様な学習スタイルで利用することを目的としたラウンジです。誰でも自由に利用できるので、学習や休憩するスペースとして活用してください。室内には自動販売機も設置しており、飲食可能ですが、窓側の小上がりスペースは土足禁止です。

### 3号館3F 学生起業サポートルーム

起業を目指す学生の活動拠点として利用することを目的としたスペースです。中央に見える机のエリアはミーティングスペースとして、誰でも利用でき、左側にはパーティションで区切られたスペースが3部屋あり、期間を区切って貸し出すことを予定しています。



※平成28年2月末時点の完成イメージ図のため、実際の部屋と異なる場合があります。

平成 27 年度から、授業に海外研修プログラムが組み込まれている科目（通称「事情科目」）が開講されることとなりました。この授業科目を履修すると、専門共通科目の 2 単位を修得することができます。また、この授業科目のために本学 OB である佐野力氏の寄附金により設立された「佐野力海外留学奨励金」（給付型）があります。

実際に、このプログラムを履修した学生たちは、どのようなことを学び、経験したのでしょうか。今回は、事情科目の一つである「アジア・オセアニア事情」により、夏季休暇中にオタゴ大学（ニュージーランド）とマラヤ大学（マレーシア）に短期留学をした学生 2 人にインタビューしました。



2年 齋藤 里奈  
留学先：オタゴ大学  
(ニュージーランド)

夏休みの3週間を使って、ニュージーランドで英語を勉強してきました。特に私が行ったオタゴ大学のあるダンニデンというところは小さく穏やかな街で、毎日ゆったりと過ごせました。語学学校での授業の内容は幅広く、文法からプレゼンテーションまで様々です。どの授業でもクラスメイトは輪になって座り、自由に発言できます。「お喋り」しながら授業を受けている感覚で、とても楽しいのですが、その中で自然と聞き取りや英語を話す練習ができていたのだと思います。週末はよくホストファミリーとウォーキングに行きました。山の中のコースを歩き、川を渡ったり滝を見つけたり、予想外にハードでしたがニュージーランドの自然を満喫できました。短い期間でしたが、言葉や文化など、その国に馴染んでいく経験ができました。始めは不安もありましたが思い切って留学してよかったです。



3年 田野倉 光一  
留学先：マラヤ大学 (マレーシア)

スラムパギ！私は、本学留学プログラムの一つである「アジア・オセアニア事情」に参加し、昨年の夏期休暇の約一ヶ月間、マレーシアにあるマラヤ大学で過ごしました。本プログラムは、マラヤ大学言語学部のご協力のもと商大生に向けて企画されたものであり、授業は「ビジネス英語」に特化した内容でした。授業中は積極的に発言を求められる環境であったので、「間違いを恐れずに」英語を話そうとする姿勢が自然と身につきました。また、通常の短期語学留学とは異なり、同大学経営学部での特別講義を受講する機会や、マレーシア最大の自動車メーカーであるプロトン、マレーシア国立銀行に訪問する機会も与えられ、商学に勤しむ私達にとって非常に魅力あるプログラムとなりました。

課外時間には、連日現地の人々や学生達と交流し、様々なマレーシアの文化に触れることができました。その常夏の気候はさることながら、人々や食事、宗教の多様性など、私にとってマレーシアはまさに異国の地であり、これらの経験が私の視野を大きく広げてくれたと思っています。これが、私にとって、本プログラムを通じての一番大きな収穫です。

最後になりましたが、本プログラムにご尽力いただきました両大学関係者の皆様、そしてご支援をいただきました佐野力様に、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

保健管理センターからのお知らせ

# 必ず守ろう! 飲酒のルール



平成 24 年、本学で飲酒事故があり、一人の若く貴重な命が失われてしまいました。私たちはそのことを深く心に刻まなくてはなりません。未成年飲酒や飲酒運転、飲酒の強要は、明らかに社会のルールに反する行為です。万が一、こうした行為に巻き込まれそうになったとしても、雰囲気流されるのではなく、毅然とした態度で＜NO＞を表明し、自身と周囲の人たちの未来を守ってください。

## 未成年者の飲酒は厳禁

成長期にある未成年者の飲酒は、身体的・精神的・社会的にさまざまな影響があります。身体的には脳の機能低下や性腺機能障害などを引き起こし、精神的には未成年飲酒は短期間でアルコール依存症を発症すると言われています。社会的には飲酒運転による交通事故や成績不振など場合によっては学生生活を継続できなくなるほどの大きな影響が及びます。未成年者自身はどんな場面であっても飲酒を断り、成人は未成年者に決して飲酒をさせないようにすることが重要です。また、成人になってもアルコールが健康障害を起こす飲み物であることには変わりはありません。危険な飲酒をしないように心がけることが必要です。

## イッキ飲みの危険性

血中のアルコール濃度が最高度に達するまでには、ふつう飲酒してからおよそ 30 分から 1 時間かかるといわれています。そのため、最初はアルコールを大量に飲んでいても、どれだけ多くの量を飲んだのか、本人も周りの人たちも気づかないのです。そして、その場の雰囲気を盛り立て、尋常ではない量のアルコールをイッキに飲んで（飲ませて）しまうと、血中アルコール濃度が急激に上昇し、「ほろ酔い期」も「酩酊期」も飛び越して、一気に「泥酔」「昏睡」の状態にまで進んでしまいます。それは、場合によっては呼吸停止などを引き起こす危険な状態です。これが急性アルコール中毒です。

**イッキ飲みは死につながる危険な行為です。絶対にしてはいけません。**

## アルハラ の定義 5 項目 アルハラとはアルコール・ハラスメントの略。飲酒にまつわる人権侵害。命を奪うこともある。

1. 飲酒の強要	上下関係・部の伝統・集団によるはやしたて・罰ゲームなどといった形で心理的な圧力をかけ、飲まざるをえない状況に追い込むこと。
2. イッキ飲ませ	場を盛り上げるために、イッキ飲みや早飲み競争などをさせること。「イッキ飲み」とは一息で飲み干すこと、早飲みも「イッキ」と同じ。
3. 意図的な酔いつぶし	酔いつぶすことを意図して、飲み会を行なうことで、傷害行為にもあたる。ひどいケースでは吐くための袋やバケツ、「つぶれ部屋」を用意していることもある。
4. 飲めない人への配慮を欠くこと	本人の体質や意向を無視して飲酒をすすめる、宴会に酒類以外の飲み物を用意しない、飲めないことをからかったり侮辱する、など。
5. 酔ったうえでの迷惑行為	酔ってからむこと、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ、その他のひんしゆく行為。

※一つでもあてはまったら、アルハラになります。

## INFORMATION

当センターではアルコールに関する DVD の放映と、「アルコールパッチテスト」を 6 月中旬頃に開催する予定です。（詳細は後日掲示等でお知らせいたします）アルコールを代謝する能力の違いは生まれつきの体質が関係しています。まずは簡単な検査で自分の体質を調べてみませんか？みなさんのご参加をお待ちしています。



小樽商科大学には、サークルや学校祭など、学生が楽しめる様々なイベントがあります。もちろん、そのようなイベントも本学の魅力の一つですが、ここで一つ「学び」に焦点を当ててみましょう！小樽商科大学教育開発センターの学部教育開発部門では、学生の「学び」に対する意欲を高めるために、昨年からは新しい試みを取り入れているのです。

今回は、学部教育開発部門・部門長の佐山公一先生（商学部・社会情報学科 教授）に、具体的にどのような試みが行われているのかお話を伺いました！



※教育開発センターは、平成 28 年 4 月からグローバル戦略推進センター教育支援部門となります。

## ○学部教育開発部門って何をしているところ？

学部における教育課程の基本方針、教育内容・方法の改善、教員養成のあり方などに関するさまざまな業務を行っています。

## ○IBM SilverPop を使って、学生を直接刺激！

佐山先生の担当する教科「認知科学」では、IBM SilverPop というシステムを使って、学生の学習意欲を直接刺激する試みがなされています。その方法は、マーケティング・オートメーションを利用した、学生への授業メール配信です。マーケティング・オートメーションとは、元々、【メールやソーシャルメディア（SNS）などを使って、企業のマーケティング活動を効率化すること】を言います。これにより、一人一人の顧客に対して、最適なコンテンツを最適なタイミングで、自動的に提供します。



佐山 公一 教授  
(商学部・社会情報学科)

「認知科学」では、このマーケティング・オートメーションを「学生」に対して行っています。メールの自動配信という形で、授業の中では触れられなかった「認知科学」という科目の成り立ちや、研究方法などの背景情報を詳しく伝えています。こうすることで、学生の教科に対する興味を刺激します。さらに、このメールは、あたかも自分一人に届いているかのような文面で書かれているので、先生と学生との距離感も今までにないほど近いものを感じるでしょう。実際にこの試みが実行されてから、授業の出席率は上昇したようです。

現在、manaba（：教育支援・学修管理システムのこと。学生は、インターネットのマイページ上から、講義に使う資料のダウンロードや、レポートの提出等ができます）が商大の標準的な自学自習支援システムになっています。佐山先生のお話では、こうしたメール自動配信のような、自動的でありながら個別指導もできる仕組みを manaba に取り込むことができれば、より良いシステムになるとのことでした。

## ○大学全体の授業改善

また、学部教育開発部門で行われている新しい試みとしてもう一つ、manaba 上で行う【自学自習アンケート】があげられます。これは、学生の学習の動機を高めるために、大学はどのような工夫を施せばよいのかを考えるために行われました。学部教育開発部門では、この自学自習アンケートによって得られたデータを詳しく分析し、学生の特徴をタイプ分けします。そして、それぞれのタイプに合わせて、的確な学習のアドバイスができるようにしているのです。

このように、小樽商科大学では学生の学びをサポートする、たくさんの取り組みがなされています。新入生の皆さん、いかがでしたか？これから始まる大学の授業に興味がありましたか？いろいろな行事とともに毎日の授業も楽しんで、充実した大学生活を送りましょう！

